

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成	年	月	日
事業所名				
ユニット名				
事業所番号				
記入者名	職名		氏名	
連絡先電話番号				

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>入居者が、その人らしく、明るく豊かに過ごすために必要となるサービスを、適切に提供できるよう心がけている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>朝礼やケアカンファレンスなどで、認知症の特性への配慮や、進行にあわせた穏やかな支援が行えるよう検討を重ね、理念にある「やさしい対応」の実現を目指している。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>入居者の家族に対しては、契約時にホームの運営姿勢の紹介として盛り込んでいる。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>日常の挨拶は欠かさないように心がけている。また、レクリエーションの機会に入居者と職員が一緒につくたパンやおはぎを近隣におすそ分けをすることも珍しくはない。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>老人会メンバーからのボランティアを迎えたり、近隣の小学校の運動会を見に出かけたりするなど、交流の機会を大切にしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>介護度の進行に伴う業務量の増加傾向など、現在の職員体制による平常業務の状況からは、なかなか実現は難しいが、事業所の外へも目を向けていくことができるよう機会の創出を心がけていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>定期的な「振り返り」の機会が、平常業務に追われて見落としがちな部分を具体的に再確認する機会になっている。第三者による評価とあわせ、よりよい事業運営の指針に活用したい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>会議内容の充実をめざすとともに、入居者の家族をはじめ、近隣住民等への継続的な支援・協力をはたらきかけていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>地域包括支援センターをはじめ、成年後見センター等の担当者や、直接具体的なケースに対する支援体制の強化を目指している。今後は研修会等への参加を通じ、職員全体の理解度についても底上げを目指したい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>高齢者虐待防止法の理解など、外部研修での内容を参考に、ホーム内部でも伝達講習を実施している。とくに、些細な言葉からでも、入居者が心理的・精神的な苦痛を感じてしまう場合があるので、職員ひとりひとりが「ゆとり」をもって業務にあたることのできる職場環境の維持をめざしている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約や解約の際は、十分な時間をかけ、丁寧に説明を行なっている。また、説明後も、疑問が生じた場合は気軽に相談をいただけるよう配慮している。</p>	<p>専門用語を多用せず、わかりやすく説明を行っている。入居者や家族への不安や疑問を解消いただけるよう質問には、細かく説明を行なっている。入居後、または退居時の入居者の様子を、家族にもイメージしやすく伝達するよう配慮している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>気兼ねなく入居者が職員に相談できる環境づくりを実践し、運営にも積極的に反映できるよう取り組んでいるが、外部に第三者委員を設置するには至っていないため、外部者にあらかずき機会はあまりないと思われる。</p>	<p>入居者のしぐさや言動から、ことばにならない要望への気づきをめざしている。些細なことも、職員のみならず、管理者や理事長と利用者が直接対話する機会を日ごろからもち、入居者の「こうしたい」という思いがあれば、反映しやすい体制づくりをさらに強化したい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>介護計画の確認時のほか、家族等が面会に来訪された際に近況の報告を行っている。金銭管理報告は定期的に、心身の状態に変化がある場合や、医療受診の際にはその都度連絡を行っている。</p>	<p>ホームだよりの送付により、家族への情報提供を行っている。また、レクリエーションや行事への参加家族の数も、少しずつではあるが、増加傾向にある。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>気兼ねなく家族等が職員に相談できる環境づくりを目指し、家族や入居者からの意見や不満、苦情に対する迅速な対応を心がけている。提言は運営にも積極的に反映できるよう取り組んでいるが、外部者に表す機会は限られている。</p>	<p>要望等については、ご家族に直接お尋ねしたり、用紙をお送りしてご記入いただくなどの手法も場合によって併用している。ホーム内のみで調整が困難な場合は、ホームより第三者への立会いを求め、解決にあたるケースもある。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼やケアカンファレンスの際のほか、何か問題が起こった際にはその都度、運営に関する職員の意見・要望を、直接管理者に伝えることは容易である。しかし、その後の反映に至るまでには調整に時間がかかる場合もある。</p>	<p>職員が提案しやすい面を活かし、今後、内容がより建設的なものとなり、管理者が柔軟な対応を示すことで、さらに意思疎通がスムーズで、職員の意見が反映されやすい職場環境の実現へとつなげていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事のほかに、医療受診の支援など、入居者の身体状況の変化により、職員の増員を要する時間帯がすこしずつ出てきているが、職員相互の協力による勤務調整を行なっている。</p>	<p>勤務調整による対応に努めているが、臨時職員の採用や介護職員の増員も継続的に検討している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむをえず職員が離職する場合は、十分な引継ぎ・移行期間を設け、入居者にとって馴染みの職員のかかわり方を踏襲できるよう配慮することで、入居者の精神的な不安要素を軽減しよう心がけている。		日ごろから、複数の介護者によるかかわりがもてるよう人員配置を行なっている。カンファレンスを通して、入居者への独特のかかわり方については、職員相互に共有できるよう情報交換を行なっている。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有資格者や研修修了者の離職による影響もあるが、職員の保有する資格や経験年数に応じ、段階的に外部研修等への参加の機会を提示し、勤務調整を行なうなど、順次受講の機会を設けている。		個々の職員によって指導方法の差異が生じる場合もあり、方針確認を要する場合があるため、スーパーバイザーの導入を視野に入れるなど、人材育成の手法を検討していきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や外部研修の機会に管理者が他の事業者と情報交換を行っている。外部からの情報をもとに、日々のサービス提供のあり方について、視点をかえて冷静に見直すきっかけにしていきたい。		入居者の面会や認定調査、ケース会議を通じ、地域の医療・福祉関係者がホームに来訪することもあり、職員が間接的に刺激を受ける機会も増えている。施設間の外部交流を希望する職員の声に対応できる体制づくりを目指していきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	希望休の取得等も、可能な範囲で職員相互の話し合いにもとづき調整がなされている。職員は業務内容について、主任や管理者に対し、率直な意見交換のできる関係にあり、個別に調整がなされている。		職員のストレスについては、職員間でも話をしやすい人間関係の構築を目指している。管理者による普段の聞きとり等により、個人が心理的負担を抱え込むことは比較的少ない。今後はその課題に対する調整にむけて、より働きやすい職場環境の実現を目指したい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護業務に追われる日々が陥りがちだが、ケース検討などを通じ、職員の実績評価に努めている。職員相互の情報交換による見直しや検討・工夫の機会に加え、研修受講やその報告によるスキルアップの機会を大切にしている。		職員のキャリアに応じた研修の機会や資格取得に向けての支援に努めている。入居者の変化に対する支援について、相互に工夫を重ねる職員の努力を評価し、モチベーションを高めることができる環境づくりを目指したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約前にも、可能なかぎり入居希望者本人との面会の機会を設け、すこしづつゆっくりと本人のおもいを受け止めるよう心がけている。</p>	<p>本人への声かけを積極的に行い職員一人ひとりが気持ちを引き出し、不安なことに関しては、早めに解決を導くよう心がけている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期の相談は、認知症の進行による現在の介護負担や不安、ホームに求めることなど、あれこれ混在した相談が多い。家族の苦労やおもいを受け止める時間を大切にしつつ、実際のサービス提供現場を見ていただくことを含め、入居後の具体的なイメージの伝達するよう心がけている。</p>	<p>利用に至る以前の面談では、入居の可否判定と、金銭的負担の面における不安が先行するケースが多いため、家族等からの相談の内容を解きほぐして整理しつつ、入居後のイメージを具体的に伝えながら家族との関係構築を試みている。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の求めを受け止めつつ、その緊急性や医療的な側面など、「まず必要となる支援」を見極め、小規模集団における共同生活の可能性や、ホームの特色、職員の力量等を総合的に勘案し、場合によっては他のサービス利用も検討いただいている。</p>	<p>本人と家族の状況や求めに対し、本人に「まず必要となる支援」についての見極めを行い、必要に応じてホームへの入居以外の、連携する他のサービス利用や、地域の行政機関への相談窓口を紹介させていただくという選択肢も提示している。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>職員や他の入居者と、すこしづつ話ができるよう、それとなく促すなど、徐々に馴染むことができるよう、事前の見学や体験入居の機会を大切に支援を心がけている。</p>	<p>見学や体験入居を通して入居者や職員と接する機会を設け、ホーム側も徐々に受け入れ体制を整えるよう努めている。お互いの生活に急激な変化を与えないよう配慮することの必要性について、ご家族にもご理解とご協力をいただいている。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>介護者としての一方的な立場でなく、人と人との関わりを積極的にもつことで、教わることや笑い合えることを大切に、あたたかい雰囲気づくりを目指している。</p>	<p>むかし話に耳を傾け、生活暦の把握を通し、興味の対象となることを把握し、入居者が主役になれる場面の創出を意識している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日常生活の中から垣間見られた細かな表情の変化をご家族にお伝えすることで、入居者の普段の心身の状況を、ご家族とともに継続的に見守るほか、面会時における共通の話題提供に努めるなど、家族と共に支える関係構築を目指している。		職員から家族へ入居後の暮らしぶりをお伝えしつつ、入居後の落ち着いた心境でご家族が連想される、本人支援の手がかりとなる情報を、以前の家庭における生活スタイルを振り返りつつ、ゆっくりお伝えいただく機会を継続的に設けている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事等への参加を呼びかけるほか、普段の面会時間も幅を持たせることで、家族が来訪しやすい環境を整えている。面会を楽しみにする入居者のおもいがかなうよう支援を行っている。		ホームでの近況や、日々の暮らしの中で起こる些細な珍事、身体機能の状況についてお伝えをすることで、入居者と家族が疎遠にならないよう、ホームとの情報共有を心がけている。ホームだよりの発行についてもご家族から一定の評価が得られている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から情報提供いただいた、入居者にとっての馴染みの人やなつかしい場所の話題を、普段の会話の中に織り込みつつ、忘れない支援を継続的に実践している。		ホームだよりの等々の広報を通し、ホームの行事に、親族や知人と気軽にご参加いただくよう働きかけを行うほか、面会時に、家族等と入居者が共通の話題で盛り上がるよう、ホームからの近況報告を丁寧の実践している。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の相性や雰囲気を見つつ、口論になる前に職員がさりげなく話題を転換するなど間に入ることもある。利用者の傍らに、誰かがそっと一緒にいる「安心感の支援」を実践している。		平屋建て平面2ユニットの利点を活かし、ユニット相互の行き来や、合同レクリエーションの機会をもつことで、入居者同士が協力して活動をしたり、新たな出会いを通して他者との多様な関わりの機会がもてるよう配慮している。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された入居者への面会や、契約終了後の相談も可能な範囲で応じている。すでに退居され、なくなられた入居者のご家族と継続的にお付き合いをさせていただいているケースもある。		退居後も、ご家族の気持ちや意思を尊重しつつ、必要に応じて面会に伺うなど、ホーム側も運営上の負担にならない範囲での支援は継続したいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>支援の際に、入居者のライフスタイルに自分らしさを継続的に意識できるよう心がけ、ことばにならない要望や意思の受け止めや、ことばの意味とは違う本来の要望に対する理解など、本人とのかかわりを通して職員の感じたことを共有し、本人の意向把握に努めている。</p>	<p>本人の希望や意向把握について職員が感じたことを共有し、判断や解釈に迷いがあれば、他の職員やご家族と相談し、これらを実現する手法を検討している。暮らしの各場面での、選択による意思決定の機会をふやし、本人の意向をかなえにくい場合は、代替案の提示など、折り合いを見出す工夫を行っている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時における家族や紹介者からの情報とともに、入居者のしぐさやむかし話に耳を傾け、生活歴の把握に努めている。ホームでの暮らしのリズムを強制することなく、少しずつ馴染めるよう、本人の様子を見守っている。</p>	<p>入居時の情報に加え、職員が入居者のかかわりの中から見出したたり、気づいた情報をすこしずつ積み上げることによって情報量を増やしている。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居者の心身の状況変化や言動について、背景となる周辺状況をふまえた簡潔な記録について、表現の技術的向上を課題とするほか、職員相互の情報伝達と状況把握の内容が慢性的にならないよう努めている。</p>	<p>日勤やパート職員も、申し送り内容のほか、前日までの日報を一読する習慣をつけ、全体的な把握の上での支援にあたっている。記録の必要性と情報共有の意図を理解し、入居者の言動の周辺状況を適切な表現で、簡潔に記録することは継続的な課題である。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画案については、ケアカンファレンスを通して職員の気づきを反映し、家族や関係者とも調整がなされている。</p>	<p>入居者と介護職員からの聞き取りをもとに計画作成がなされ、家族の意向や関係者との調整が具現化されている。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスの情報を反映し、介護計画の見直しの機会を検討しているが、最近では機能低下に伴う区分変更に関連する介護計画の見直しの必要性が増えている。</p>	<p>更新の認定調査や区分変更等による見直しの機会の都度、入居者の実情に応じた支援計画に調整を加えている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスや職員からの聞き取りからは、細かい気づきや工夫についての情報が抽出できるが、記録に反映することに苦手意識があるため、職員共通の改善課題として取り組んでいる。		入居者への支援や取り組みの結果や、容態の変化の状況記録など、介護計画の変更にあたり、反映すべき情報がすぐに見つかるよう、ケース記録の簡素化と記入時における目的意識を明確にし、情報の共有化を目指す取り組みが継続的な課題である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	昼夜を問わず生活全般の支援にあたるため、その必要性も多岐にわたる。必要性や状況に応じた柔軟な対応をめざしている。		医療受診の支援など、必要に応じて支援を行なっている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日常的なレクリエーションに地域のボランティア団体に協力をいただいている。また、消防署に依頼し、避難訓練や救急対応など、入居者の生命を守る取り組みに力を入れると共に、緊急時の支援体制の確立を目指している。		文化・教育機関等との交流は、開催頻度が低いので、今後の課題として検討したい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向に応じて、地域の他のサービス事業者との調整を行い、実現に向けた支援を行なっている。		入居者の意向と心身の状況を客観的に判断し、地域の他のサービスを活用する方法や導入時期について、協議を重ねている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	支援計画の作成にあたり、地域包括支援センターの主任ケアマネジャーから助言を受けるケースもあり、権利擁護事業についても該当者がいる。		権利擁護事業や後見人制度を活用する入居者への支援体制の検討をすすめている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医療機関をかかりつけ医とする入居者が多いが、なかには、家族の意向により希望の医療機関を利用される入居者もある。		ホームの提携医療機関からの往診を受けることも可能である。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医による往診のほか、必要に応じて通院による専門医の診断を受けられる機会が確保されている。		認知症専門医による医学的見地から、薬の説明や職員への指導もいただき、ケアカンファレンスにて情報を共有している。認知症の進行について不安を抱える家族の同席による場合もある。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の訪問看護ステーションの看護師による定期的な健康管理のほか、ホームにも看護師・准看護師資格を有する職員が在籍し、日ごろから入居者の支援にかかわっている。		ケア・カンファレンスにて、医師からのアドバイスや看護と介護の橋渡しをホームの職員が担う体制が整いつつある。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との情報交換や相談支援は、主に管理者・介護支援専門員の意見をもとに、ソーシャルワーカーなどと綿密に展開している。		医療機関に入居者が入院した場合、その担当者との連絡を密に取り、入院期間中の情報と退院後の支援内容について協議を重ね、家族の協力のもと、入居者の心身の安定をみて、早期の退院支援を実践できるよう心がけている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	専門医の診断に基づき、ホームからも相談をするほか、入居契約時に、ホームにおける「入居者の心身の状況が重度化した場合における対応に係る指針」の提示を行っている。		早い段階から、本人や家族と、繰り返し話し合い、その時点における意向確認の機会を設け、方針を確認・共有できるよう心がけている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームを「家庭と同様の終のすみか」として終末期を穏やかに迎えたい」という申し出があれば、認知症専門医ならびに、かかりつけ医の助言のもと協議を行い、支援ができるよう体制の整備をすすめている。		認知症の原因となる疾患が急性の状態にある場合や、入院治療を要する場合など、ホームにおける他の入居者との共同生活に支障があると考えられる場合は、継続したホームでの暮らしが困難になる場合も見受けられる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	環境の変化に伴う本人への負担が少なくすむよう、これまでの支援経過などの情報を共有できるよう配慮している。	環境の変化や介護内容の変化からのストレスが最小限に押さえられるよう、家族等の同意があれば、ホームで知りえた情報を提供し、協力をしている。
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	親しみながらも個人の尊厳を守り、過去の出来事に触れる際など、自尊心を傷つけないよう慎重に言葉を選ぶよう心がけている。	個人情報の取り扱いについては、複数の入居者の記録が混在しているものの取り扱いに特に配慮をしている。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	ことばを置き換えたり、時間をおいてもう一度確認をしたりするなど、おもいを表現しやすい手法やタイミングを計って自己表出の機会を設けている。	わからなかったり、決められないときも、あせらずにゆっくりと接するよう心がけ、選択の手法を併用するなど、入居者の負担にならない自己決定のあり方を模索している。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	おだやかな時間の流れの中で歌をうたったり折り紙や体操など、一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしの支援を目指している。	職員側が時間配分の主導権を「つい」もってしまいがちなため、ゆったりと流れる時間の中で、生活を支える視点を大切に、入居者一人ひとりのペースや希望に寄り添う配慮が継続的な課題である。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	日々の気分を表現し、はつらつと過ごすことができるよう、ホーム内では、誰もが相応におしゃれに気をつかう雰囲気を大切に、話題にするよう心がけている。理美容は、美容室を開いている入居者の家族の協力により、本人の望むように散髪やセットをしてもらっている。	自己表現の機会として、素敵に装うことを大切にしている。誕生日会や外出の日は、よそ行きのおしゃれをすることで、自然と顔つきがよくなり、気分の切り替えと話題づくりを実践している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクリエーションでつくる「あんパン」や「はたもち」は入居者共通の楽しみである。大根やいもなど、ホームの菜園で採れた野菜や、地域の方から分けていただいた果物も食卓に並ぶことが多い。盛り付けやお茶の準備のほか、下膳を手伝って、流しに食器を運ぶ役割を入居者が担う場面もある。		食事の時間を楽しめるよう、好き嫌いを職員が把握するほか、時間で打ち切ることのない支援を目指している。また、入居者が職員とともにパン作りを楽しむ機会もほぼ定期的となり、作るだけでなく、たべることも楽しみとなっている。好物は全員「あんぱん」で一致し、食卓に並ぶほか、地域に振舞うこともある。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	1日2回のおやつ時間に、曜日ごとにお茶や紅茶、ジュースなど違う飲み物を出しているが、コーヒーを選ばれる入居者もいる。ホームとして嗜好品については、特に制限は設けていない。		医療的な制限を要する場合は、医師との相談の上、対応を協議します。
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要に応じて、一人ひとりの排泄のパターンを把握することができつつあり、スムーズな声かけ・誘導を実践している。		必要に応じて排泄チェックを行なうことにより、排泄パターンの把握に努めている。これにより、誘導のタイミングが安定し、職員によるばらつきを減らすことにつながっている。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴順序の選択については、幅を持たせて考慮していおり、ゆったりと入浴を楽しめる支援を心がけているが、日によって慌しくなることも見受けられる。		機会ごとに花びらや柚子、菖蒲をいれるなど、楽しみをつくって誘うことで、入浴に対する抵抗感を減らす工夫を実践し、皮膚の清潔を保つよう配慮している。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムの安定をはかるよう心がけているが、うとうとお昼寝をしたい陽気のときは、リビングのソファベッドで休んでいただくなど、入居者一人ひとりの、その時々状況に応じた、さりげない支援を行なっている。		夜間の排泄誘導は、時間で固定せず、様子をみながら実施している。また、眠りにつけない日には、リビングでテレビをみたり、職員と話しながら洗濯物をたたむの手伝ってもらするなどして、安心や落ち着きを取り戻す支援を実践している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩や畑仕事のほか、食事会や誕生日会など、行事を企画しては、歌をうたったり、小物作りを実践している。ホームでの手伝いなど、ちいさな役割をもって、暮らしのはりあいしている入居者もいる。		ホームの庭から菜園まで、見回りをすることを楽しみにしている入居者には、散歩をかねて、天気や体調をみながら支援をするなど、一人ひとりの感覚に合わせた楽しみ方を引き出せるよう心がけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員の見守りのもとで、金銭に触れる機会を大切に心がけている。金銭管理能力に応じて、欲しいものがあるときは、購入できる機会を設けている。		日ごろの会話の中で、物の値段を話題にあげたり、支払いの機会を体験できるように、可能な範囲で金銭に触れる機会を支援している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の公園へと一緒に連れ立って散歩に出かける機会が多い。ホームの畑に出ることも含め、ほぼ毎日の外出を実践している。		希望者は、職員と一緒に日用品の買い物等に出かける機会がある。散歩などでも、希望の行き先や道順によって、外出する順番をすこしずつなど希望をかなえる工夫をしている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	レクリエーションの機会として、気候のいい時期には花見や海を見に出かけたり、時には劇場での観劇の機会も設けている。家族が迎えに見えて、個別に外出される機会にも恵まれている。		日々の散歩のほか、病院への通院支援の機会を利用し、少しの時間ではあるが、近くに立ち寄る支援も行なっている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との手紙のやりとりはあまりないが、入居者自らが電話をかけることは、家族や大切な人とのつながりが感じられる大切な機会として位置づけ、積極的に支援をしている。		希望に応じて電話をすることで、電話番号など数字に対する認識や、会えない人のことを思い返すことが、脳への刺激を与えることもあり、なるべく多くの回数を支援できるよう心がけている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人、友人に、気軽に来訪いただき、ゆっくりとすごしていただけるよう、お茶をだしてお迎えしたり、面会時間に余裕をもたせるなど、配慮をしている。		来訪者が気兼ねすることのないような雰囲気作りに努めている。もう一箇所、応接間のような空間があるとよいという意見もある。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法令等の正しい理解に向けて職員の勉強会を開催し、身体拘束を行わず、その場の状況に応じたケアの実践を目指している。		入居者の意向を尊重し、時には察する支援のありかたについて、ケアカンファレンスを通じて検討を重ねている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をおこなわず、庭との出入りは自由にできるが、出入りする様子は職員が声をかけつつ見守っている。居室についても職員が室外から施錠を行なうことはない。		季節の変化により寒暑への配慮を要する場合は、外出の際に玄関にて職員が声かけを行うことで対応している。居室の施錠は、入居者同士で部屋を間違えることを防衛するために、入居者が室内から施錠することもあるが、外部から職員が開錠可能なつくりになっている。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員相互の申し送り等により、職員が状況把握や予測のつきやすい環境づくりを目指し、さりげなく見守りをする支援の実践に努めている。		危険の予測されるところをなくすよう努めるほか、職員一人ひとりがフロア全体を見渡す習慣づけを実践し、入居者の気配を感じられる位置でのケース記録の記入や、出かけようとする入居者に声をかけるなど、普段から職員の目が届くよう心がけている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁などは危険を伴うが、調理経験を思い返すことには有効な物品であるため、取り扱いについては職員の支援のもと、十分に注意を払いつつ、興味が向きすぎない程度の取り組みを目指している。		洗剤や入浴剤、芳香剤など、誤飲や異食のおそれのあるものは、手が届かないよう管理しているが、はさみや裁縫道具は、必要な機会や入居者の状況に応じて出し入れをしている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	状態に応じてベッドに手すりを設けるなど事例検討を通じ、転倒などのけがや事故、危険を未然に防ぐことができるよう取り組んでいる。防災訓練の実施時には消火器の取扱いや避難訓練、消防への緊急通報の模擬演習も実施している。		入居者の状況が不安定なときは、前兆行動を見逃さないよう、職員相互の申し送りにおいても注意を払っている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習の受講促進のほか、応急手当の訓練を実施するなど、職員間での伝達講習を推進している。		看護師等の資格保持者や上級救急救命講習の受講経験者も在籍するが、非常勤や年配の職員を含め、すべての職員に応急手当の訓練を実施していくことは継続的な課題である。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルの整備のほか、非常時には、ホーム近隣の住民に協力・支援をいただけるよう依頼しており、日ごろからの付き合いを大切にしている。		ホームの職員だけでは限界があるので、日常的な付き合いの中から、ホームの近くに居住する近隣住民との関わりを大切に、協力を得られるよう努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時のみでなく、状態の変化に応じて、今後、起こりうるリスクを予測し、早めに家族と支援方針を話し合う機会をもつよう心がけている。		家族との信頼関係を基盤に、近況報告を行なうと同時に、普段からリスク対応に関する話題提起に心がけている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康状態の確認としてバイタルサインのチェックを行なっている。異常値が確認された場合は、速やかに情報を共有し医療との連携にあたっている。		顔色がすぐれなかったり、起床後の表情にくもりがあるときなど、普段との違いを見落とさないよう注意喚起し、些細な気づきについても申し送りの実施を徹底するほか、対処法については早めに検討を開始し、管理者ならびに医療の指示を仰いでいる。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方と同時に与えられる情報書をまとめた服薬情報ファイルを入居者ごとに作成し、症状の変化と処方内容の確認を怠らないように努めている。		服薬時に落としてしまったり、こぼしてしまっていないか、日々の服薬状況を一人ひとり確実に確認するとともに、薬がかわたり、用量が増減した場合は、業務日誌に転記するほか、申し送り時にも必ず伝達し、その後の経過観察に努めている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘改善薬を医師から処方されている方もいるが、お茶などの水分摂取や食物繊維・乳製品の摂取や、散歩などの軽運動を働きかけることによる自然排便に向けての支援を心がけている。		日報や排泄表によるチェックをもとに、注意喚起するとともに、必要に応じて水分摂取量を増やすなどの働きかけを行なっている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	噛むことの大切さを理解し、毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄などの口腔衛生に努めている。		歯磨きの際に、磨き残しやすすぎ忘れがないか、職員が見守りを行うなど、日ごろの口腔衛生への配慮のほか、歯科医師により歯科検診、義歯調整などの支援を実施している。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した食事の提供を行なうとともに、咀嚼力など身体状況に応じた提供方法を検討している。		食事の摂取量や水分確保の分量についての確認・記録を継続的に行なっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	入居契約時に健康診断をおこなうほか、日常の手洗い・うがいを励行し、予防接種の実施など、感染症の予防・まん延の防止に取り組んでいる。		定期的に次亜塩素酸ソーダを用いてホーム内の拭き清掃を実施するなど、感染防止策をとっている。インフルエンザ対策は保健所との情報交換のほか、掲示等により注意喚起を行っている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を使用するとともに、日常的に調理用具、ふきんなどの消毒・衛生管理に努めている。		食器は加熱洗浄、まな板やふきんは漂白洗浄を行い、冷蔵庫内における食材の残りの点検も実施している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者が外を自由に散歩できるよう環境整備を行い、出かけるときには職員に一声かける習慣づけを行っている。花壇には季節の花が咲き、玄関には季節の飾り付けを行うなど、きれいで心の和む空間演出を行なっている。		来訪者を心地よく迎えることができるよう、入りやすい玄関まわりになるよう工夫をしている。入居者にとっても、玄関先のベンチが、お気に入りの場所になっている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった花を生けたり壁飾りを変えたりすることでさりげない雰囲気の変化・演出を心がけている。自然光の入るリビングにいれば、誰かが声をかけてくれ、穏やかに過ごすことができる空間を目指している。		入居者の手づくりによる作品を掲示するなど、親しみのある環境づくりを心がけている。また、不快な音や光、振動に対する配慮のほか、においについても意識して快適性を求めている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに腰掛けてテレビを見たり、ホームの中を自由に行き来できることで、思い思いの居場所づくりができています。		職員がそっと景色のよい窓際や、庭の花の咲くところにベンチを置いたり、話をしやすい場所作りをしたりと、入居者の居場所が固定的になり過ぎない工夫も凝らしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって居心地のよい部屋になるよう、家具や布団は、いままで使い慣れたものをお持ちいただいている。		本人の使い慣れたものに囲まれた生活ができるよう家族にも協力をいただいている。レクリエーションで制作した作品で、気に入ったものは、好みの場所への飾り付けをするなど演出の支援も行っている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共用空間、居室の区別なく、気になるにおいがいい状態の維持をめざし、換気や温湿度の調整も気配りを行っている。冬季は共用空間に床暖房をするなど快適性を求めている。		冬季の室内が乾燥し過ぎないように配慮するほか、いつも風通しがよく、空気のだよみやにおいを感じないことを自慢にできるホームであり続けることができるよう努めている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	思い思いのタイミングで、本人の行きたい場所に移動することができるようスペースの確保や手すりの設置がなされている。		ホームの内部はゆったりとしたスペースが確保されており、ゆっくりつかまり歩きをすることにも支障がない。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の見やすい高さに取り付けた居室入り口の表示は、一人ひとり独自のものにすることで覚えやすくするほか、場所がわからなくて戸惑う表情を見かけたら、職員から声をかけるなど、さりげない支援を目指している。		洗濯や掃除を職員と一緒にすることなどを通して、ゆっくりと、順序だてて説明を繰り返すことで、納得が得られることもあり、わかる力を活かした支援を目指している。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの建物が平屋であるため、ホーム内の移動が容易であるほか、建物周りを気ままに散歩できるように通路がつくってある。隣接する菜園へも意欲的に移動できるように工夫をしている。		自力歩行が可能な入居者は、庭や菜園の見回りをしてくれたり、庭先の花を眺めたり、掃除の手伝いをしてくれることもある。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者一人ひとりの日常生活動作や身体機能維持を目標に、衣・食・住の環境を整えつつ、職員も入居者も豊かに毎日を過ごせるよう心がけています。入居者・職員ともにこの一年で変動の時期を迎えたが、再び落ち着きを取り戻し、ホームの雰囲気も安定してきています。医療面では、認知症専門医による往診は家族からの評価も高く、外来受診の支援など、入居者の健康管理はもちろん、職員も認知症ケアに関するさまざまな情報を入手しやすい恵まれた環境が整ってきています。